

三河

宿の物語

はづり

60536-32-1211

愛知県新城市湯谷温泉

名古屋本社
報道センター地域面
052-231-0965
FAX 231-0391
Eメール: aichi-my
town@asahi.com
豊橋支局
千440-0806
豊橋市八町通3-102
0532-52-0155
FAX 53-0661

豊橋技科大など産官学で研究会 来月に初会合

ビッグデータ活用 交通事故防止へ



豊橋市の豊橋技術科学大学や県内の企業、行政など産官学が協力し、ビッグデータを活用した交通安全管理システムづくりを目指す。このほど研究会が発足、2月13日に初会合を開く。交通量が多い幹線道路の抜け道になっている生活道路の実態などを把握・分析し、歩行者や自転車などのきめ細かな交通事故防止策につなげるのが狙い。

研究会は、交通事故死者数が14年連続で全国最多となった愛知県が、汚名返上を目指し、今年度公募した「自動車安全技术開発支援事業」に採用された。

座長は同大学の松尾幸二郎助教(交通システム学)が務め、道路標示施工会社や地理情報システム会社、豊橋市道路維持課などの担当者ら約20人で構成。20

抜け道の生活道路 実態など把握・分析

17年度末までに交通安全管理システムの構築を目指す。

警察庁の2015年の統計によると、全国の交通事故死者数は減少傾向にあるが、下止まりになっており、特に生活道路は幹線道路に比べて減少が鈍いという。幹線道路は測定器で交通量を測ることができるが、毛細血管のように張り巡らされている生活道路では局所的にしかならざるを得ないため、対策が遅れているのが一因となっている。

松尾助教は、地域交通マネジメントについて研究してきた。カーナビゲーションのGPS(全球測位システム)機能から得られる車両の位置や速度などのデータを利用して抜け道の交通実態を抽出し、可視化する手法を開発した。

研究成果などから、朝夕の通勤時間帯に抜け道を利用する車両の割合が高いことがわかった。生活道路と幹線道路を比較した場合の事故のリスクは、生活道路が2・3倍も高くなると推測されるという。

研究会では、GPSやドライブレコーダー、3次元地図などのビッグデータを利用し、生活道路における交通安全管理に必要なアプリケーションや基盤づくりのための方向性を示す。その後、自治体や企業などのニーズや課題に沿ったきめ細かな交通事故防止策を実践することができるという。

研究会の会合は年2、3回開かれる予定。松尾助教は「データ収集や管理、分析技術をする民間機関が活躍できる場が生まれ、交通安全管理以外の事業への裾野が広がるのが期待できる。道路行政を担う市などが使えるアプリケーションづくりに結び付けたい」と話す。

(松永佳伸)

交通安全の絵本 学生手作り

名古屋女子短期大学部2年生4人



読み聞かせをする学生たち一名古屋市瑞穂区汐路町2丁目の旭幼稚園

名古屋女子短期大学部保育学科(名古屋瑞穂区)の2年生4人が30日、交通安全を呼びかける自作の絵本を旭幼稚園(同区)の園児約100人に読み聞かせた。園児たちは、4人の声に耳を傾け、絵本の世界に引き込まれていた。

園児100人に読み聞かせ

絵本作りのきっかけは、昨年、同学科が区役所から「区のマスコットキャラクター『みずほっぺ』を取り上げた作品を」と依頼されたこと。1年生約170人が班ごとに絵本制作に取り組み、中間菜月さん(20)らの「いつもみてるよ みずほっぺ」など4作が優秀作品に選ばれた。

「いつも」のストーリーは、お使いに出かけた主人公がみずほっぺから信号の渡り方を学ぶというもの。題名は、みずほっぺが双眼鏡で主人公を見守っている姿からつけた。学生たちは、忙しい時期は夜9時ごろまで学校に残って、色塗りなどを進めた。

昨秋、「いつも」が代表として約200冊製本され、区内の幼稚園や保育園、市内21カ所の図書館に納められたという。

4人は幼稚園や保育園への就職が決まっている。坪井智美さん(19)は「これからもずっと、子どもたちに読んであげたいな」と話す。

(松浦祥子)